

瀬戸内の暮らしについて

2024.3.29

山崎 哲也（山口県防府市出身）

講演者 山崎哲也は、1956年12月に山口県に生まれ、高校（+一浪）まで山口で育ちました。

その後、東京大学に進学し、法学部を卒業しました。

宇部興産株式会社に就職し、駆け出しの4年間は山口県宇部市に勤務しました。 堺工場、東京本社と異動し、1987年1月からは、東京本社、千葉石油化学工場に勤務しました。

山口暮らしが長かったので、その一端をお話しします。

山口県人の県民性

・ 明治維新を実現させた偉人を多く抱えることから（総理大臣も7人輩出）

1. 中央志向 => 高校の恩師が、故郷の東にそびえる大平山（海拔631mで東京スカイツリーより低い）を指し、「あの山を越えて東へ行け」と説いた。

2. お上好き => 民間より、公職を重んじる。
（公務員（国鉄を含む）、教員、医者しかいない）

3. 私学よりも公立
=> 隣県の広島県は、私学（修道高校、広島学院等）で優秀な学校が多い。ある広島の経営者が、「山口は優秀な私学がないんだってな」と話しているのを聞いたことがある。

山口県防府（ほうふ）市

「周防の国の国府があったから「防府」（大正期に命名）

大河ドラマ「光る君へ」で国衙に清少納言と父君がいたのではとの話が紹介されました。
芥川賞作家の高樹のぶ子の「マイマイ新子」にもおじいちゃんの話として紹介されています。

平安期に菅原道真公が大宰府に下る前に勝間の浜に立ち寄ったことから、没後、松崎天神を建立、今の防府天満宮になりました。（松崎天神縁起絵巻）

「日本で一番古い天満宮」と称しています。

鎌倉期に、俊乗坊重源が、東大寺の再建のために佐波川をさかのぼり、滑（現山口市）の山林から木材を切り出した記録があります。（防府に阿弥陀寺あり）

江戸期に遠浅の海岸を埋め立てて、新田をつくり米の増産をするとともに、海辺には塩田を作り藩の財政改善に努めました。

東京オリンピックの際に、セルビアの女子バレーボールのキャンプ地になりました。

（ベオグラードにも「サバ川」が流れている。防府の中央にも「佐波川」が流れている。）

山口の名産品

- ・蒲鉾 防府の白銀・秋芳、宇部の宇部蒲鉾、仙崎の藤光蒲鉾などがあります。

弾力に富んで、小田原のものとは一味違います。

- ・外郎 山口の外郎は、きちんとわらび粉を使っていますので、味が違います。

- ・日本酒 瀬祭、貴、五橋、雁木、金雀 など有名になりました。

- ・地魚もおいしいです。（瀬戸内海、日本海、東シナ海）

メバル、カレイ、タイ、ぶり、ひらまさ、金太郎、じんがめでびらがれい、このしろ、小海老、れんちょう（舌平目）

山口県防府市出身の有名人

- ・芥川賞作家
高樹のぶ子 伊集院静
- ・俳人
種田山頭火
- ・プロ野球
高橋 明（巨人軍投手 昭和40年頃） 高木 豊（横浜 スーパーカートリオの一人）
- ・俳優
前田 吟 藤田三保子
- ・噺家
春風亭正朝 鈴々舎馬るこ
- ・音楽
鈴木 淳（「小指のおもいで」 「なみだ恋」作曲） 有馬三恵子（「17歳」作詞）
- ・その他
佐藤寛子（故佐藤栄作氏の奥様）
山根基世（元NHKアナウンサー）
宮坂 学（現東京都副知事 元Yahoo Japan社長）
メイ牛山（ハリウッド化粧品創業者）
山崎まさよし（歌手）

山口のことば（その一）

朝の挨拶が、「おはようございました。」と過去形になります。
（菅直人が東京に転校した際にも話しています。）

「Very Easy」のことを「みやすい」と言います。
県外での入試の際に「あの問題みやすかった」と言って「見易い」と勘違いされてカンニングを疑われたことがあります。（小生ではありません。）

よく言われる「のんた」は、中国山地の言葉で「間投詞です。」（相槌をうつことば）

「VERY」を表現することばに「ぶち」という言葉を使います。

例：あのピッチャーの球「ぶち速い」

宇部地方では、「ぶち」「ぶり」「まぶり」「ばり」「ごっぽ」と五段活用します。

防府では、「昨日野球をしたそいね」と言いますが、宇部地方に行くと「昨日野球をしたほいね」（特に女性）になります。

山口のことば（その二）



何て、呼びますか？

通常は「てみ（手箕）」ですが、山口、防府市では「いしぞうけ」と言い、宇部地方では「えぶ」と呼びます。

山口のおもしろい言葉（その1）

- たわん
（届かないこと） 高くて手が「たわん」
プールが深くて背が「たわん」アプローチが「たわん」かった。
- 歯が走る
（ずきずきと痛むこと）
- 脳が悪い
（頭痛がすること）
- おとんぼ
（大人数の兄弟姉妹の末っ子のこと）
- がんぜき
（熊手のこと）
- すじひき
（直線の定規のこと）

山口のおもしろいことば（その2）

- みてる
（ものがなくなること）
「はあ、酒がみてた。」（もう、酒がなくなった）
- やぶてる
（ものが壊れること）「扇風機がやぶてた」
- はぶてる
（小さい子が口をとぎらせて、不機嫌になっている様）
（いじけるともちよっと違う）
- なおせ
（修理するのではなく、ものをかたずけること）

完